

好景気と不景気の谷間から — 2カ国のバブルを体験して —

東日本国際大学非常勤講師 フランク・タック

ブーム（急激な経済発展や爆発的な流行。好景気）や不景気は国にどのような影響を与えるのでしょうか？私は生まれ育ったカナダの一州であるアルバータ州とここ日本とで、2つバブル経済を経験してきました。今、日本はバブル経済の崩壊から回復していますが、同州では、1990年代からバブル経済は日常茶飯事のことでしたし、今でも同州で起きているバブル経済は多くの弊害が生んでいます。

私の生まれたアルバータ州は、良い悪いは別として世界第2の規模の石油埋蔵量を持っています。その量はアウジアラビアについて第2位です。しかしアルバータのほとんどは州北にあるオイルサンド（砂を含む砂・岩石）です。アルバータで最初に起きた石油ブームはオイルサンドではない普通の石油で、レダック第一井が発見された1940年代の後半から始まりました。このような経済的ブームで経済成長が続けば多くの雇用を必要とします。アルバータには職を求めて多くの人々が移住してきました。彼等は住む土地を必要としますから、そうすると地価や住宅価格が上昇します。住宅の場合では、2万ドル（約240万円）したものが、3万ドル（約360万円）とか4万ドル（約480万円）に跳ね上がりました。

アルバータ経済は1960年代までは、地価や住宅価格は横ばいあるいは若干下がっていました。しかしこの停滞状態は長くは続きませんでした。1970年代の石油危機が急激な価格上昇を招いたため、オイルサンドから抽出する石油に採算性が出てきたため、ブームが加速化したのです。そのため人々は仕事を求めて、この州に流れ込んできました。その結果、住宅価格と地価が上昇しました。この頃、私の買った築90年の住宅は、買った時は42万ドル（約500万円）したのですが、これが107万ドル（約1,200万円）で売れました。ただここ数年は、石油価格が下落し、住宅価格も急落していますが・・・。

これらのブームの間、アルバータの人口は急速に増加しました。しかしブームが終焉すると人口成長率は横ばいとなり、やがて減少に転じます。雇用が危うくなるのにつれ、人々は州から出て行きます。いくらかの人々は残りますが、他は好景気の州に移動するのです。

現在、アルバータは再びブームを経験しています。2年前、アルバータ州政府は、2年前すべてのアルバータ市民に対して5百ドルの還元金を支払うことになりました（ただし住んでないとダメです。ですから私は貰っていません）。労働者が州に新たに流入してきたので住宅需要が生まれ、新規住宅購入者やビジネスでも新たな問題が出てきました。住宅価格は天井知らずとなったのです。いくつかの都市では、3寝室付きの近代的住宅が月に1万ドルもの値上がりをしています。このため、若年層は住宅市場に入れる余地がなくなっています。サービス関連企業は従業員を確保することが出来なくなり、多くのレストランではスタッフ不足のため開店時間を短縮しています。ある看護施設では看護人1人に対して患者10人であるべきところが25人という状態です。それで多くの企業ではスリランカ、モロッコ、メキシコのような国から労働者を受け入れています。雇用者の需要に間に合わないのです。たとえ需要が満たすことが出来たとしても、彼等の住む住宅やアパートは不十分です。

もちろんかつての日本がそうであったようにブームはいずれ勢いを失います。そうすると雇用機会が少なくなり、住宅価格や地価も下がるでしょう。日本はバブル経済が崩壊した1990年代にこれらを経験しています。アルバータに住む高齢層もこのことをよく理解しています。しかし、若年層や新たに州に移住する外国人はわかりません。彼等はブームは無制限に続くと思っているからです。しかしブームが終焉した時には、多くの人々は仕事と給与を失います。このようにアルバータに住む人々は不安定な状況に直面するでしょう。

ただ、アルバータは以前のブームとは急激に違った歩みをすると思われます。それはかつてのヨーロッパの衰退と同じ局面を迎えるものではありません。すなわち外国人と溶け合った社会が形成されると考えられます。その意味で日本も外国人労働者雇用の面で同じような面に直面しその解決が迫られるでしょう。

ある歴史家が言っていますが、歴史的経験に学ばなければ将来がどうなるかは分からないと。これを経済的意味に焼き直すと、例えばバブル経済で失ったお金のことを歴史として知らなければ、次にバブル経済がきた時にお金を失うことになるでしょう。その意味で、今、アルバータや日本の人々は歴史から学ぼうとしない面があるのが気になります。(翻訳・文責: 同大経済情報学部教授 大川信行)